知ってた？

福島高校

地域創生学

ちいきそうせいがく

**福島高校では、現在、「地域創生学」という授業に力を入れています。
生徒たちは、一体どのようなことを学んでいるのでしょうか？
その全貌を明らかにします。**

地域創生学のはじまり

**普通科系高校の授業としては珍しい「地域創生学」。
導入した経緯について、福島高校の代継 忍先生に話を伺いました。**

地域創生学には、「くしま学」という前身の授業がありました。現在も小学校、中学校では取り組んでいますが、かつては当校でも行っていたんです。ですが、それは小中のくしま学の内容と大きく変わるものではなかったんです。そこで、くしま学で見つけた串間の課題を解決するための提案を行い、実現させるところまでを学習できないかなと考えたんです。

これが3年前のことなのですが、当時の2年生は、串間の名産品で作ったスイーツを商店街の空き店舗で提供する「スイーツカフェ」をできないか市に提案しました。空き店舗の利用までには至らなかったのですが、11月の秋祭りでは観光案内所を使って自分たちが考案したケーキを販売しました。

提案通りの実現はできなかったものの、アイデアを提案すれば実現してくれる人がいる。また、高校生でも実現できることはあるということが証明できたんです。

この高校版くしま学がベースとなり昨年4月に、学校設定教科の「地域創生学」という授業が誕生しました。それまでは「総合的な学習の時間」を授業時間に充てていましたが、地域創生学になったことで、豊富な時間で研究活動にじっくり取り組めるようになりました。この授業は、問題解決力、判断力、表現力を養うことを目的としています。さらに、チーム作業による協働力も身に付けられるでしょう。

彼らには卒業後、地元（ローカル）でも、グローバルな舞台でも活躍できるグローカルリーダー（グローバル＋ローカルリーダー）として成長していって欲しいですね。

宮崎県立福島高等学校
進路指導主事
代継（よつぎ） 忍（しのぶ）先生

福高3年間の学び

**普通科高校でありながら、就職にも進学にも対応できる福島高校。
3年間の流れを見てみましょう。**

1年次

入試後のクラス選抜試験により、学力に応じて3つのクラスに分類。

1、2組【普通クラス】
- ●少人数指導による基礎学力の定着
- ●高校と中学の教員と連携して英語・数学を指導

3組【探究クラス】
- ●大学進学を視野に基礎から応用力までを養成

2年次

2年次から、学力と本人の希望を考慮しクラスを分類。
1年次に1、2組だった生徒が3組に進学することも可能。

1、2組【地域創生クラス】
就職、専門学校進学を目指す情報ビジネスコースと、私立大学、短大、医療系以外の専門学校進学を目指す総合進学コースに分類。

3組【探究クラス】
文系と理系に分かれ、国公立大学や私立大学、医療系専門学校への進学を目指す。

「地域創生学」を解説!!

地域創生クラス

1、2組が取り組む学習クラス。体験学習がメインとなり、串間市役所や宮崎産経大、地元企業の協力の下、①「食」をメインテーマとして地域資源を生かした商品開発、②「食」に関する流通やサービス、マーケティングの学習の2つを柱に活動しました。

前　期

**特産物で
まちを活性化させるには？**

まずは、どんな地域資源があるのかを知るためにくしまアオイファームさんを訪問。すると、串間には5種類の芋があることが発覚！ 串間で**年に2回行なわれている移住体験ツアーで、この5種の芋を使ったお菓子を参加者に提供する**ことが決定しました。

その後、全国の移住ツアーについて調べたり、どんなお菓子を作るかアイデアを出し合うなど、実践に向けた下地を作っていきました。

芋の苗植え体験もしました

グループごとのアイデアを発表する生徒たち

後　期

商品開発開始！ 串間のPRへ

開発する**お菓子のコンセプトは「串間のファンを作ろう」に決定!**串間産の5種類の芋を多くの人に知ってもらおうという思いから、タルトの開発がスタートしました。タルトに使う芋のペーストはアオイファームさんからの提供、生地は自分たちで作りました。商品ネーミングとパッケージについては外部講師を招いて、アドバイスをもらい、ついに商品が完成! **移住体験ツアー参加者に提供し、存分に串間をPRしました。**

完成したタルト

2年 河野（かわの） 華羽（かずは）さん

地域創生探究クラス

3組が取り組む学習クラス。進路に応じた5つのチームに分かれて、串間の活性化に向けた研究を進めます。昨年4月に市役所を訪問し、各チームのテーマに沿った串間市の課題を聞き取り調査。そして、導き出したアイデアを、2月に開催した発表会で披露しました。

5つのチームの提案を紹介

教育国際チーム

世の中では少子化が進んでいるが、串間には保育園数も多く、子どもの数も決して少なくはない。その強みをさらに生かすため、**福島高校を「コミュニティスクール」と位置づけ、子育てしやすい場所、小学生の遊び場に活用できないか。**

地域医療チーム

市民の健康への関心が低いという課題に対して、健幸講座や南九州大学に足を運んで研究。①健康増進に関するPR活動、②健康に良いとされているファイトケミカルスープの考案、③子どもを対象にした健康教室の実施の3つを軸に、**健康に対して幼少期からの習慣づけを行う。**

工学エネルギーチーム

市は再生可能エネルギーによるまちづくりを推進しているが、市民の認知度の低さが課題。そこで、**再生可能エネルギーの生産設備と、子どもの遊び場という2つの機能を持たせたツリーハウスを建設し、再生可能エネルギーを市民にPRできないだろうか。**

農学食品チーム

農業従事者の減少という課題を研究・調査。**昨年閉校になった中学校の校舎を宿泊所として利用しながら、「農業体験ツアー」を実施すること**で、他県の人が串間を知るきっかけになる。そこから移住という流れになれば、農業従事者が増えるのではないか。

地域創生チーム

市を活性化させることを目的に高校生に何ができるのかを研究。串間をたくさんの人に知ってもらい、足を運んでもらうことが必要であり、そのためには**串間市の PR 動画を発信する必要性がある。**発表会では自分たちで制作した動画を上映しました。

2年 安永（やすなが） 遼（りょう）さん